

【記入例】

（別添）

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

※この調査票は、上田市耐震改修促進事業補助金交付申請の除却工事において添付できます。

※この調査票により、「倒壊の危険性がある」と判断された住宅は、除却の補助申請が可能です。

調査日時： 令和 7 年 〇 月 〇 日 午前・午後 〇 時

調査者氏名： _____

調査を行った日時を記入。

調査を行った者の氏名を記入（押印不要）※調査者の資格等は問いません。

- I）建築物の概要
- 1．建築物の所有者： 〇〇 〇〇
- 2．建築物所在地： 上田市 〇〇 〇〇番地
- 3．階数： 〇 階

II）前提条件の確認（いずれも必須）	チェック欄
木造住宅である	
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	

該当する場合は、チェック欄にチェックを記入。

注意）2項目のうち両方又はどちらか一方に該当しない場合は、本調査票の対象外となります。

III）一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

（1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断）

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外（玉石、石積み、ブロック等）である	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

各項目について、該当する場合はチェック欄にチェックを記入

※該当する項目が1つ以上ある場合、「倒壊の危険性がある」と判断されます。その場合、次項「IV）壁の割合」以降の記入は不要です。

※各項目の例示については、解説を参照してください。

IV）壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ（m）	建面（㎡）	イ／ロ	必要値	ハ／ニ
X					
Y					

※上記の「Ⅲ）一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」において1つ以上の該当がある場合は、以降の記入は不要です。

※この計算は、2階建て以下の住宅の場合に適用できます。3階建て以上の住宅で「Ⅲ）一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」において1つ以上の該当がない場合は、別途お問い合わせください。

※「わが家の耐震診断と補強方法」（監修 国土交通省 編集 財団法人日本建築防災協会 社会法人日本建築士連合会）の壁の割合の計算に基づく計算方法です。

The diagram shows a stepped profile on a grid. The profile is defined by the following segments (from left to right):

- Vertical segment: 4.5
- Horizontal segment: 2
- Vertical segment: 1
- Horizontal segment: 2
- Vertical segment: 2
- Horizontal segment: 0.5
- Vertical segment: 2
- Horizontal segment: 1.5
- Vertical segment: 2
- Horizontal segment: 5
- Vertical segment: 0.5
- Horizontal segment: 3
- Vertical segment: 0.5
- Horizontal segment: 0.5
- Vertical segment: 0.5
- Horizontal segment: 1.5
- Vertical segment: 0.5
- Horizontal segment: 0.5

Overall dimensions (indicated by blue arrows):

- Overall width: 11
- Overall height: 5
- Overall width (excluding first vertical segment): 9.5
- Overall height (excluding first vertical segment): 2.5

A coordinate system (X, Y) is shown at the bottom left with a 1m scale bar.

- ①住宅内外の壁の長さを計測してください（2階建ての場合は、1階のみ）。
※耐震診断では、方向別の壁の長さが重要です。
- ②壁を太線で記入し、それぞれの壁の長さをメートル単位としてその付近に書き込んでください。
※窓・ふすま・障子・ドアなどの開口部分は記入不要です。
※実線1マス1mとして書き込んでください。

(イ) 壁の長さの合計

① X (横) 方向

② Y (縦) 方向

①

27.5

m

②

20.0

m

建物のX (横) 方向の壁の長さの合計を記入。

建物のY (縦) 方向の壁の長さの合計を記入。

①と②のうち小さいほうを記入してください。

イ

20

m

(ロ) 面積

ロ

79

m²

平面図から、面積を㎡単位として求めて記入してください。
5×11+2.5×9.5=55+23.75=78.75

(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

イ

20

÷

ロ

79

=

ハ

0.25

単位面積あたりの壁の長さを求めます。枠内のカタカナに対応する数字を記入。

(ニ) 必要な壁の長さ

ニ

0.20

m

下表から該当するものを選んで記入してください。

下の表から該当するものを選んで、上記 ニ に記入してください。

階数	平 屋	2 階建
屋根の種類		
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

ハ

0.25

÷

ニ

0.20

=

ホ

1.25

壁の割合を求めます。ハとニについては、枠内のカタカナに対応する数字を記入。
計算の結果、ホの数値が0.8未満であれば、倒壊の危険性があると判断できる。